



# 日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association

2009.1 第34号



提◆言

## 「もったいない」とSPF養豚

社団法人 日本養豚協会参与  
日本SPF豚協会元副会長

高橋 吉男

あけましておめでとうございます。

さて、生活が豊かになるにつれ日本人は「もったいない」ということから離れてしまったのではないのでしょうか。とはいえ、最近、地球温暖化や世界的な資源問題に続く不況で、日本人にもまた少し「もったいない」の気持ちが出てきたようにも思います。

そんな中で、SPF養豚の出発点は「もったいない」にあるのではないかと改めて思います。

30数年前、私は青年海外協力隊員として東アフリカのタンザニアに2年間滞在しました。当時、東アフリカと日本との生活の差は非常に大きく、ほとんどの子供たちは素足で駆け回り、着ている服は継ぎ当りの洗いざらしで、最初は本当に衝撃を受けました。しかし、そんな中でも子供たちは明るくて元気だったことが記憶に強く残っています。我々が簡単に捨てる物も大事に再利用していました。物が足りない中、工夫しながらの生活が、人同士のつながりも大事にするのかな、と今になって思っています。

タンザニアの北に国境を接しているのがケニアです。ケニア人でノーベル平和賞を受賞した、ワンガリ・マータイさんが、「もったいない」という日本語を再発見してくれたことは、私にとって大変印象的でした。

SPF養豚と「もったいない」についてですが、養豚が産業化し、効率化のため、多くの豚を集中して飼うようになりました。豚をまとめて飼うのは確かに効率的でしたが、その結果、新たな疾病問題が起これ、豚が沢山死ぬようになり、死なないうまでも餌は食べてもなかなか大きくなり「もったいない」状態になりました。この「もったいない」対策として、SPF養

豚が開発されたといえるでしょう。

SPF化するには最初の投資が大変ですが、SPF化し、その状態を維持できれば、病気が減って管理が楽になり、生産性が向上するため、初期投資の回収は十分可能です。

「もったいない」には、餌のこぼれや腐敗、給水器の水漏れ、暖房しながらカーテンを開ける非効率など直接的なものがあります。これらを改善し、むだを省く「もったいない」対策がある一方で、豚の発育能力を十分に発揮させるために必要な投資を惜しまず、肉の生産コストを下げるのもまた、「もったいない」対策といえるのではないのでしょうか。その最適な方法がSPF化ともいえます。

豚がよく育つためには「良い餌と水、快適な空気が与えられ、病原体がない」状態で飼育することが理想です。豚房は豚の寝室であり、食堂であり、トイレでもあります。豚は住むところを自分では選ばません。より良い餌・水を与え、豚にとって快適な環境を維持し、SPF豚農場の防疫設備と管理を常に点検して病気の侵入を防げば、豚はすくすく育つでしょう。

相撲の世界では「土俵に宝が埋まっている」といわれます。稽古を積んで出世すれば富もついてくるといふことなのでしょう（夜中に土俵を掘った人がいるとか、いないとか?）。

皆さんの農場にもまだまだお宝が埋まっているのではないのでしょうか? 厳しい時には守りを固めることは当然でしょう。しかし、このような時にこそ、守るだけでなく、積極的に宝を探し掘り起こす前向きの視点を併せ持つことが必要だと思います。



# S P F 豚セミナーを開催—H20.10.28—

## CM農場表彰も19年度に続き実施

昨年10月28日（火）、東京千代田区のKKRホテル東京において、協会主催の平成20年度S P F豚セミナーが開催され、セミナー、懇親会とも約90名の参加がありました。

セミナーでは昨年に引き続き、優秀CM農場の表彰が行われ（選考対象は一貫農場のみ）、総合生産成績部門で北海道の青木ピッグファームが、商品化頭数部門で岩手県の(有)胆沢養豚が、それぞれ最優秀農場として表彰されました。胆沢養豚は2年連続受賞の快挙となりました。

表彰農場の業績発表および当日行われた2講演の要旨は以下のとおりです。

### 業績発表・総合生産成績部門最優秀賞 青木ピッグファーム（北海道）



出席できなかった青木代表に代わり、所属ピラミッドであるホクレンの岩瀬俊雄技官が業績発表

青木ピッグファームは平成15年8月から種豚を導入開始、翌年5月から肉豚の出荷が始まりました。母豚150頭、年間肉豚出荷

頭数は4,000頭強である。代表の青木賢一さんは38歳の働き盛り。農場内の飼養管理はほぼ1人でこなす。午前4時に起床、農場には午前4時半に入り作業を開始。日常管理は午前中に終了し、午後は豚舎や器具・機械の修繕・修理とフル回転。

青木さんは薬嫌いで、薬品を使用しない養豚を目指している。豚舎毎に専用の長靴、帽子、作業着があり、必ず着替える。また、長靴は高圧ノズル洗浄機を使って靴底も徹底的にきれいにする。

豚舎内は非常にきれいで清潔、掃除と整理整頓が行き届いている。さらに豚舎の洗浄、乾燥、消毒に十分な時間をかけている。ちなみに、子豚舎の空房期間は2週間。病原菌の感染リスクを管理で最小限に抑え込んでいる。

日々基本に忠実に豚を扱い、1頭でも多く健康に育てるため、こまめな管理を心掛けている。

その結果が次の成績である（H17～H19の平均）。

農場回転数 1.95 農場飼料要求率 2.92  
年間肉豚出荷頭数 25.28 A薬品費 4円  
総合生産指数 131.38

分娩回数 2.39 哺乳開始頭数 29.54  
離乳子豚頭数 26.70 出荷日令 163.85  
B薬品費 3円 C薬品費 67円

### 業績発表・商品化頭数部門最優秀賞 (有)胆沢養豚（岩手県）

農場規模は母豚220頭、年間肉豚出荷頭数は5,800頭強である。5人（実質4.5人）で管理している。

農場敷地は2町歩。それ以外に、農地8町歩がある。ラグーンは400頭規模の一貫農場が可能な処理能力を持っている。

豚舎建築後20年を経過している。平成8年に協会認定農場となった。

社長の高橋充好さんはいかに上手に育て、高く売りに力点を置く。肉豚は脂肪を厚めに仕上げる。販売面では薄くてしまらない豚肉が一番嫌われる。

豚を上手に育てるには、まず人を育てないといけな



出表彰式で赤池協会会長より賞状を受取る(有)胆沢養豚の高橋充好社長



い。従業員には豚の生態的特徴をよく観察し、こまめな管理、細かい工夫をすることで、豚の持つ能力を最大限に活かすよう指導している。従業員教育は、現場で豚を見ながら、機械設備を見ながら行っている。

分娩舎では分割授乳と里子を徹底して行っている。哺乳子豚に代用乳をお湯で溶いて、飲み残さないようにこまめに与えている。効果があると感じている。

離乳は25日位で行い、子豚はその場所（分娩房）で約70日（約35kg）まで飼育する。これは事故率の軽減に大いに貢献している。離乳時4kg以下のものは、分娩房の上に小さいケージを組み立て、そこで飼い直しをする。これにより、年間約100頭多く商品化できる。手をかけるなら小さいうちに、という考え方である。

肥育舎でのテイルバイティング（尾かじり）の豚も、肥育豚房上にケージを作り、すぐに隔離して飼育する。

離乳母豚の給餌は、離乳当日夕方半量給与、翌朝絶食である。離乳後4～6日の再帰発情は95%である。

当農場の技術目標のうち、なかなか達成できないのが分娩率である。目標90.5%に対し、実績は89%台である。

以上のような、こまめな管理、工夫が1母豚あたり年間肉豚出荷頭数が25.76頭という好成績につながっていると考えている。

## ●講演●

### これからどうなる飼料原料

全農畜産生産部穀物課課長 川崎裕之氏

米国農務省は2008年10月10日付の穀物需給見通しを修正すると発表した。過去このような例はない。このことは一時的か、長期的なことなのかの判断が難しいが、穀物情勢が大きく変わったと考えられる。

直近のトウモロコシのシカゴ定期相場は、世界の主要生産国での穀物の豊作と金融危機に端を発する世界同時不況懸念から天井をつけたものの、依然3年前の約2倍の高値で推移している。

2009年8月の世界の穀物在庫率の見通しは、粗粒穀物全体で13.41%、トウモロコシでは13.46%で、長期的には減少傾向が続いており、2008年が豊作だったからといって楽観視できる状態ではない。適正在庫水準は

2か月分(17%)といわれている。

短期的には、需要の減速懸念や投機資金の流出から、相場が一昨年来の一方的な

上昇局面に戻ることは考えにくい。しかし、中長期的には、継続するバイオエタノールの需要増加や新興国の需要構造の変化、地球規模の気象条件の変化、国際巨大資本による寡占化の流れ、さらに各国の政策的輸出規制による国際穀物流動性の欠如などの影響を受けて逼迫傾向が続くと考えられる。

今回の世界の穀物価格の上昇を招いた要因は4つある。1つは、新興国（BRICs等）の需要拡大及びバイオエタノールに代表される新規需要の増大。2つ目は、反収の伸び悩みや異常気象による不作からの供給量の不足。3つ目は、投機ファンド資金の穀物マーケットへの流入。4つ目が各国の政策的輸出規制である。4つの要因が有機的にかみ合い、高値が高値を呼び歴史的高騰を招いたと考えられる。

元来シカゴ商品先物市場を代表とする穀物マーケットは市場規模が小さく、立会取引という特殊性もあり、投機ファンドが運用目的で資金を大量に投入するようなことは考えにくかった。つまり今までは、穀物マーケット相場は生産量と需給量のバランスで変動していた（基礎的要因）。そこに新たな力が加わった。サブプライム問題等により、それまで株式市場や為替市場で運用されていた資金が、原油や穀物などの商品先物市場へ大量に流れ込こんだのである。

穀物マーケットは規模が小さいので、買えば素直に上がる相場といえる。また、各国の政策的輸出規制が輸入国の逼迫感をあおる形となった。

では、今後どうなるのか。2008年は世界的に豊作が予想されており、世界的不況もあって需給の危機は一時的に回避されると思われる。また、エタノールの副産物であるDDGS（トウモロコシ醸造粕）はエタノール生産に使われるトウモロコシの約3分の1に相当



川崎裕之・全農畜産生産部穀物課課長



し、有効な飼料原料となり得る。

さらに、穀物相場の下落により投機資金の引き揚げも予想される。したがって、飼料価格は今後数か月は落ち着くと見られる。しかし、現在の在庫レベルは、到底長期的に安定供給できるものではない。需給が逼迫すれば、再び基礎的要因で上昇すると考えられる。

このような国際情勢をふまえて、全農では30年前から、国内へ穀物を安定供給するためのシステムを強化することに努めてきた。現在、全農の穀物調達能力は、たとえば日本全体が必要とする飼料用とうもろこしの3分の2にまで拡大している。JAグループが「自らの調達力」にこだわるのは、品質の安全性や安定供給が揺らぐことがあってはならないという観点からである。穀物メジャーや供給国側の都合で日本の食料供給が不安定になることがあってはならない。

## ●講演●

### 動物福祉と養豚生産性を考える

(社)日本養豚協会常務理事 小磯 孝氏

「アニマルウェルフェア」は「動物福祉」や「家畜福祉」と和訳されている。しかし、「福祉」が、社会保障を指す言葉として使用されていることから、本来の「幸福」や「良く生きること」という概念が欠落し、誤解を生じる恐れがある。そこで、アニマルウェルフェアに対応した豚の飼養管理指針では「アニマルウェルフェア」を「快適性に配慮した家畜の飼養管理」と定義している。

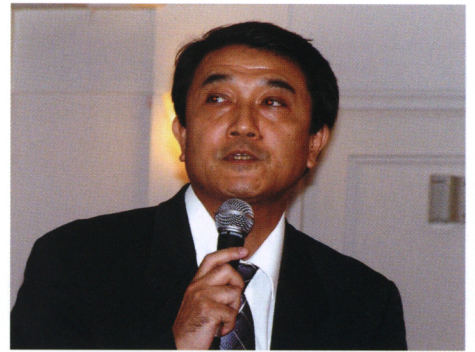
動物福祉が客観的に満たされているかどうかを判断するために次の5つの自由が定義されている。これは動物福祉の国際的なガイダンスとして世界に広く浸透している。

- ① 飢えと渇きからの自由
- ② 苦痛、傷害又は疾病からの自由
- ③ 恐怖及び苦悩からの自由
- ④ 物理的、熱の不快感からの自由
- ⑤ 正常な行動ができる自由

この5つの自由を満たしていなければ十分な福祉が得られていないと考えられる。

アニマルウェルフェアは愛玩動物（ペット）にとど

まらず、近年、展示動物、実験動物も対象となってきた。諸外国ではついに産業動物も対象となり、法律化あるい



小磯 孝・(社)日本養豚協会常務理事

はガイドラインの作成が進んでいる。特にEUなどが中心となって、動物福祉を世界に拡大しようとする政策や運動が行われている。一定以上の動物福祉を満たして育てられた家畜の肉や卵のパッケージに認証シールなどを貼り、付加価値を付けて市場に出しているウェルフェア畜産物というものもあり、消費者にも認知されている。

我が国では、平成19年度～20年度の2年間で、実態調査、試行試験を参考としながら「アニマルウェルフェアに対応した豚の飼養管理指針」を作成する。

今回、全養豚生産者にアンケートをお願いし、70%弱の回答を得た。これを、世界のアニマルウェルフェアの実際と比較し、次の問題点を洗い出した。

- ① 繁殖豚のストールでの常時飼育
- ② オガコ豚舎は糞尿の上で飼育しているとの指摘
- ③ 生後8日以上での去勢
- ④ 生後8日以上での耳刻
- ⑤ 豚舎内の照明は今後検討必要

この実態をふまえた上で、2009年2月の検討会でパブリックコメントを作成し、それを農林水産省が検討して、産業動物の指針を決定することになる。

なお余談ながら、小磯氏にアニマルウェルフェアの起源についてお尋ねしたところ、ヨーロッパが最初で、過酷な扱いをされていた使役用牛・馬へのいたわりの扱い（定期的水やりの義務）に端を発しているらしいとのことでした。また、ヨーロッパよりも遅れたものの、日本においても使役用牛・馬が対象で、やはり定期的な水やりの義務が主だったそうです。

日本にしるヨーロッパにしる、アニマルウェルフェアの起源の対象が愛玩動物ではなく、産業動物であったことは意外でした。



# 豚マイコプラズマ肺炎②

東京農業大学教授 山本 孝史

## マイコプラズマ感染はどれくらい持続するか？

疾病の対策を立てる上で、感染動物がどれくらいの期間、病原体を排出するのかということ、きわめて重要ですが、これまでマイコプラズマ肺炎に関してはよくわかっていませんでした。ただ、マイコプラズマ肺炎の清浄化を試みるには、若い繁殖豚より年齢の進んだ繁殖豚を用いた方がいいということが経験的に知られており、その理由として年齢の進んだ繁殖豚ではマイコプラズマ肺炎が治癒して排菌していないため、母豚から感染することが少なく、離乳後隔離飼育することによりマイコプラズマ肺炎に罹患していない子豚が得られると考えられていました。

このことから、マイコプラズマ肺炎はかなり長期にわたって持続すると考えられて来ましたが、具体的な期間に関するデータは知られていませんでした。しかし最近、Pietersら(2008)は、60頭の豚に*Mhyop*を感染させ、定期的に18頭ずつ試験殺して次のようなことを明らかにしました。すなわち、感染後94日目にはすべての豚の気管支（一番検出されやすい部位）に*Mhyop*が証明されましたが、214日目には18頭中11頭に減少し、254日目には試験殺した18頭のすべてが陰性になりました。また、抗体は、それぞれ17/18、4/18、4/18が陽性で、肺病変は94日目に18頭中7頭に認められましたが、214日目、および254日目に試験殺した36頭には認められませんでした（表1）。

さらに、80、200、240目に「おとり豚」を14日間同居させて、最後の日に「おとり豚」を試験殺して感染の有無を調べたところ、80日目から同居させたおとり豚15頭のすべてに感染が認められ、また15中6頭には肺病変も認められました。200日目から同居させた豚では、15頭中8頭の豚の気管支から*Mhyop*が証明されましたが肺病変はなく、240日目から同居させた豚では、

表1 実験感染豚の経過

感染後の日数	病原体の検出 <sup>a</sup>	抗体 <sup>b</sup>	肺病変 <sup>c</sup>
94	18/18 <sup>d</sup>	17/18	7/18
214	11/18	4/18	0/18
254	0/18	4/18	0/18

a 気管支スワブのNested-PCR      b DAKO ELISA  
c 肉眼病変と組織病変              d 陽性豚数/供試豚数

表2 おとり豚の経過

同居の期間 (実験感染豚の 感染後日数)	病原体の検出 <sup>a</sup>	抗体 <sup>b</sup>	肺病変 <sup>c</sup>
80-94	15/15 <sup>d</sup>	0/15	6/15
200-214	8/15	0/15	0/15
240-254	0/15	0/15	0/15

a-d 表1と同じ（14日間の同居終了時の成績）

すべての豚で*Mhyop*および肺病変とも陰性でした（表2）。このように、感染後254日経過した豚では、気管支にもはや病原体は存在せず、おとり豚に感染させることもできないことが実験的に明らかにされました。

言い換えれば、マイコプラズマ肺炎では、病原体は少なくとも214日（7ヶ月）間は体内に持続感染しているということになります。しかし、このデータはあくまでも実験感染での成績であり、供試豚もPRRSウイルスが陰性である等、他の呼吸器病原体がないことを考慮しますと、野外の感染ではさらに長期間持続すると思われるべきでしょう。

さらに、感染しても肺炎病巣の認められないことがありますし、抗体が陰性になっても病原体を保有していることがあるということが表1からわかります。さらに、マイコプラズマ肺炎では抗体の上昇は遅く、抗体が出現する前から排菌しています。抗体検査成績に基づいて投薬プログラムを作成する時には、このような抗体と病原体の関係を考慮して作成することが重要です（以下次号）。

<文献>Pieters M., et al., An assesment of the duration of *Mycoplasma hyopneumoniae* infection in an experimentally infected populatrion of pigs. Vet. Microbiol. (2008), doi:10.1016/j.vetmic.2008.08.016



## 紹介●SPFのお店⑦

### 松坂屋

東京都大田区千束1-44-4  
TEL.03-3717-3390

3号ぶりにお肉屋さんのご紹介です。

東京西部に位置する東急目黒線と大井町線の交差する大岡山駅。日本初の「病院を持つ駅」（駅舎の上が病院）を出てすぐの北口商店街に肉と惣菜の店「松坂屋」があります。昭和20年頃からという長い歴史を持ち、近くの大型スーパーにも負けない元気な商店街で唯一の精肉店。平日の午後という時間帯でもお客さんがひっきりなしに訪れる評判のお店です。

社長の櫻澤徳蔵さんは4代目。叔父である3代目の跡を継いで30年近くになります。

豚肉は長年付き合いのある中村忠商店から仕入れる(有)ケイアイファウム（協会認定農場、岩手県）の「岩中ポーク」のみ。「中村さんのすすめで仕入れてみたら、とても扱いやすい。ドリップも少なく、筋もやわらかいので、安心してカットできます。以前は黒豚なども置いたけれど、手ごろな値段でおいしい肉を提供したいから今はこれ一本。お客さんの評判もいいですよ」と櫻澤さん。基本はセット購入のため、手づくり惣菜も多数販売しています。定番以外にもかなり豊富なメニューに驚いていると「明日が



松坂屋の皆さん。右端が櫻澤社長。

定休日だから今日は種類が少ない方かな」。スタッフは全部で10人。店内は活気に溢れています。



SPF豚について何うと「横文字のせいかな正直親しみが少ないですね。もっと生産者とのつながりがほしい。会えるのが一番いいけど、せめて産地やエサの情報、お薦めメニューなどを載せた農場紹介パンフなどがあれば。消費者と生産者を結ぶのは私たち販売者ですから」とアドバイスをいただきました。

## ●協会からのお知らせ●

### ●協会は一般社団法人へと移行しました

法改正に伴い、昨年12月1日をもって、すべての有責任中間法人は、自動的に一般社団法人に移行しております。名称については現行のままですが、6月の定時総会において定款等を変更、登記後に「一般社団法人日本SPF豚協会」となります。登記完了次第変更いたします。

### ●認定農場用Tシャツ・キャップを販売中

昨年に引き続き、認定農場限定Tシャツ・キャップを好評発売中です。農場名入りのオリジナル品も承りますので、ぜひご検討下さい。お送りしてある申込書(チラシ)をご利用の上、協会までFAXにてお申し込み下さい。ご不明な点は事務局まで。

### ●地域研修会の開催について

継続事業となっております農場向け地域研修会は、

年度内開催が1か所程度になる予定です。詳細が決まり次第、該当地域の認定農場の皆様にお知らせいたします。ぜひご出席下さい。

### ●写真、ご意見、ご感想をお寄せ下さい

認定農場周辺の美しい自然風景や、かわいい子豚など、自慢の写真をぜひ協会までお送り下さい。「豚舎のある風景」として、協会ホームページのトップページに掲載いたします。

また、協会は今年設立40周年を迎えます。秋に予定しております記念事業について、皆様のご意見などお寄せいただければ幸いです。

『協会だより』の感想、意見、協会への要望、疑問・質問、寄稿などもぜひお寄せ下さい。方法は郵送、FAX、Eメール等、何でも結構です。ご不明な点は協会事務局まで。



## 豚肉たっぷり和風カルビスープ

レシピ提供：いのこ家総料理長・林 勝

新年最初の登場は和風のカルビスープです。作り方は意外と簡単。野菜もたっぷりとれて体が温まる、寒い冬にピッタリの一品です。SPFポークのよさを生かすにはあまり煮込まないのがコツのようです。

### 材料（4人前）

SPF豚バラ薄切り肉 200g  
大根 500g、人参 300g、にら 0.5束  
水菜 100g、豆腐 1丁  
赤パプリカ・黄パプリカ 各20g

### <スープ>

水 2880cc、  
和風顆粒だし 30g、キムチの素 30g、ラード20g  
みりん180cc、薄口しょうゆ 180cc、昆布 10g

針とうがらし・ごま 少々

### 作り方

- ① 大根・人参は短冊切り、にら・水菜は適当な長さに、パプリカは千切り、豆腐は大きめのさいの目に切っておきます。
- ② 鍋に水、昆布、顆粒だし、薄口しょうゆ、みりんを入れて火にかけます。
- ③ 沸騰したら昆布を取り上げ、キムチの素、ラード、大根、人参を入れ、野菜に火が通るまで煮ればスープの完成です。
- ④ 豆腐を入れてさっと火を通し、スープの中で肉をくぐらせます。
- ⑤ 器に盛って真ん中に水菜・パプリカを乗せ、ごまを散らし針とうがらしを飾ったらできあがりです。

### 【林シェフのひとこと】

豚肉は煮込まないで最後にしゃぶしゃぶの感じで火を通すとやわらかくいただけます。ラードを入れるとスープにこくがでます。しょうゆは薄口の方が味がしっくりきます。スープが余ったら、ご飯を入れたカルピクッパやうどんを入れたカルピうどんにもできます。ぜひお試しください。



## ●認定情報●

### ●平成20年度認定農場

[12月認定] (有効期間：平成20年12月4日から21年12月末日まで)

北海道・ホクレン滝川スワインステーション種豚センター (有)道南アグロ、富良野スワインファーム(有)、(有)山中畜産千歳農場、(有)中多寄農場、(有)サクセス森、青森県・(有)ふなばやし農産、神明畜産(株)八戸ファーム、(有)ふなばやし農産第3農場、岩手県・全農岩手県本部種豚センター本場、(有)ケイアイファウム玉山農場、斉藤SPF農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、秋田県・(有)ポークランド、山形県・(有)最上川ファーム、(有)鮭川ピッグファーム、宮城県・(株)しまざき牧場、(農)しわひめスワイン、福島県・神明畜産(株)川内ファーム、(株)ユキザワ玉川農場、茨城県・(有)山西牧場、(有)常陸牧場、(有)クロスファーム、(有)澤畑養豚センター、群馬県・(有)長谷井畜産、ピックファームゴカン、(有)アイビー、千葉県・実川養豚、綱島良信養豚場、高森養豚場、小長谷養豚場、(有)菅井物産SPF農場、(農)米本畜産、長

野県・(有)ヤマイチファーム、岡山県・(有)岡山ジェイエイ畜産吉備牧場、(有)エム・ピー・エフやなはら、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産上馬場農場、愛媛県・(株)ユキザワ大川農場、(株)ユキザワ丹原農場、大分県・(株)北九州ジェイエイ畜産大分SPF種豚農場、(有)エス・イー・ダブル安岐ファーム、長崎県・(有)芳寿牧場口之津農場、同国見農場、同島原農場、(有)エス・イー・ダブリュー大西海ファーム、宮崎県・江夏商事(株)夏尾農場、鹿児島県・(有)サツマ湧水事業部栗野農場、(有)サツマ高尾野農場、(株)シムコ阿久根GP

(以上50農場)

※次回認定委員会は平成21年3月12日(木)の予定

<訂正>33号掲載の農場について下記のとおり訂正します。  
千葉県・(有)東海ファーム→同倉橋本農場、同第2農場→同第2肥育農場、同第1肥育農場(追加)、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産上馬場農場→12月認定





(有)クリーンポーク豊丘農場

松下 敏文さん

●長野県豊丘村

## 常に進化する心で

クリーンポーク豊丘農場がある豊丘村は、南北に長い長野県の南部に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスを望み、その間を流れる天竜川沿いにある人口約7,000人の村です。

社長の松下敏文さんは、首都圏で大手自動車メーカーに勤務していましたが、25歳の時Uターン、豊丘村で就農しました。父親から養豚と果樹の複合農業を引き継ぎましたが、新たにSPF農場を立ち上げるにあたり「やるなら、ある程度の規模で企業化するべき」との信念で、平成9年、当時県内では最大規模の母豚350頭一貫経営を開始。県内では比較的新しい農場です。

現在、松下さんを含め総勢5名、ウィークリー管理を基本とし、それぞれが担当を持ちながらもお互いが協力し、創意工夫をして効率的な管理を行っています。

松下さんは豚を管理する上で重要視しているのが「エサ・水・環境」。エサはSPF専用飼料に加え液状ヨーグルトを与え、水はミネラル豊富な地下水に酵素液やイオン水を飲水添加し、環境においてはクラシック音楽を聴かすなどこだわりを持った飼養管理を行っています。

さらに新たな取組みとして、分娩直後の人工乳以降すべての飼料を抗生物質の含まれていないものに変更しました。松下さん曰く、「農場名でもあるクリーンポークのクリーンとは、安心・安全な豚肉を消費者に届

けたい、その想いで命名した。食の安全性が問われる昨今、無薬のエサを使えるのは、SPF豚の飼養管理技術以外ない」と自信を持っています。また、今までは長野県SPF豚ブランド「信州SPF豚」で販売していたものを、「信州SPF豚クリーンポーク」と農場名を明確にし、産地の



見える地産地消、農場指定・数量限定として地元の量販店を中心とした販売の取り組みも開始しました。

松下さんは「SPF豚をもっと広く認知してほしい。地域の方々に、地元こんなおいしい豚肉の生産農場があることをわかってほしい」との考えから、平成19年、自ら、隣接する飯田市にある農畜産物直売所の一面に“肉処 松とし”をオープン。ここでは「信州01ポーク」のブランドで販売を行っており、一部とはいえ、生産から販売までの一貫経営を実現させました。

さらに、昨年からは循環型農業を開始、農場の堆肥や液肥を用いて野菜を栽培、豚肉とともに直売所で販売しています。常に新しいことに取り組む松下さんに、今後、やりたいことを尋ねると、「農畜産物全般の地産地消を広げたいね」。大きな夢を持ちつつ、常に進化する経営者です。(JA全農長野 亀子 剛)

### 編集後記

昨年は世界の情勢が大きく変化する年になりました。安定するまでには少なくとも数年は要するでしょう。良しにつけ悪しきにつけ米国中心だった世界が大きく変わるかもしれません。このような状況で我々は何をすべきでしょうか。慌てふためいても始まりません。ピンチはチャンス原動力と捉え、新たな発想、行動で対応していきたいものです。日本にはその力があります。たとえばおいしい米づくりの技術を飼料米生産に活かすことは国内の休耕地活用に留まらず、アジア地域の米作地帯の拡大、食糧難の解消につながることも、米産国とうもろこしに過大に依存してきた日本の畜産体制に大きな変化をもたらすことができるかもしれません。Yes, we, can! (哲)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは  
有限責任中間法人  
日本SPF豚協会の  
登録商標です

### 日本SPF豚協会だより

第34号 2009年1月1日発行(季刊)  
発行 一般社団法人日本SPF豚協会  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376  
e-mail : j.spf.a@nifty.com  
http://www.j-spf.com/  
発行人 赤池 洋二  
編集人 林 哲